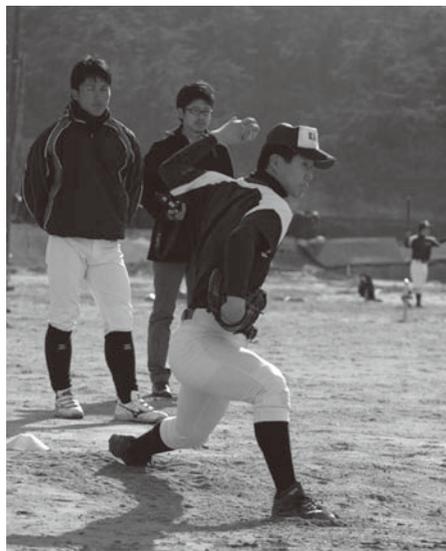




中大からいわき海星高へボール贈呈。  
左から中大・慶田城コーチ、いわき海星高・鈴木投手、中大・島袋コーチ、いわき海星高・坂本主将



左腕エース鈴木投手の練習を見守る島袋コーチ

# 甲子園の戦い方

## ～中大野球部がいわき海星高を激励訪問～

甲子園大会で史上6校目の春夏連覇を達成した沖縄・興南高出身の中央大学硬式野球部、島袋洋奨投手（商学部2年）と慶田城開（けだしろ・かい＝商2）学生コーチが2月10日、選抜高校野球大会に21世紀枠で初出場する福島県立いわき海星高を訪問し、甲子園の戦い方をアドバイスした。

### ボール5ダース プレゼント



中大一行は、東日本大震災から3カ月後の2011年6月に激励訪問して以来2度目の対面だ。地元の中大OB、佐藤文孝さん（材木店経営）らの協力要請を受けて実現した。2人のほか松原敏隆野球部副部長、秋田秀幸監督が同行。中大からいわき海星高へ甲子園出場記念のボール5ダースが贈られた。

島袋投手らは小名浜市内のいわき海星高を今回初めて訪れた。海岸

まで120mほどの近距離で、あの日は押し寄せてくる大津波で校舎1階部分がほぼ壊滅。グラウンドは球場の形態がなくなり、校舎窓ガラスなどの破片がまだまだ土中に埋もれている。瓦礫処理の工事用重機が作業するなか、野球指導が始まった。

急ごしらえのブルペンで投げたのはエース鈴木悠太投手。島袋コーチが潮風を受けながらそばで見守る。同じ左腕だけに秘策を授けるのでは…と期待したマスコミ約20人が囲む。思うように話せない大学左腕は苦笑いだ。「グラウンドを見て驚きました。高校生は野球をする以前に大変な思

いをしている。僕らで少しでもお役に立てたらいい」

慶田城コーチは甲子園で安打製造機と言われた。「力んだらダメ。ボックスもパンチを打つ前は力をためている」とティーバッティング練習では他競技を引用して分かりやすく説明した。フリーバッティングは校内にある溶接工場内で行った。

約2時間の練習後、島袋コーチは「甲子園は誰もが行ける場所ではありません。東北を代表して胸を張ってプレーしてほしい」とエールを送り、「僕は初めての甲子園で、すごく緊張した。野球を始めてあんなに緊張し





慶田城コーチは捕手の後ろで1球ごとにアドバイス



鈴木投手(中央)は甲子園の安打製造機、慶田城コーチ(右)を打席に迎えて緊張気味だった

# 教えます



たことはありません。それで自分のピッチングをしようと自分に言い聞かせたと打ち明けた。春夏負けなしの大投手も、当初は周囲を見る余裕がなかったようだ。

海星高は県内唯一の水産高、選手らは学校所有の練習船「福島丸」(499トン)に乗船し、ハワイ近海までまぐろ延縄漁に出る。選抜大会終了後に日本を発ち、帰国は夏の地方大会開幕2週間前だ。全員で練習できるのは今だけ、グラウンドは不備でも甲子園1勝に懸ける思いが高まっている。

慶田城コーチが「きょうはみんなと



テレビ局スタッフの機材をお借りして、高校選手とともに取材する島袋、慶田城両コーチ

練習できて楽しかった。みんな明るくて、僕らが逆に元気ももらった」と言えば、海星高の坂本主将が部員16人を代表して感謝した。「甲子園のこと、僕らは知らないことばかりです。緊

張して当たり前なんですね。いい勉強になりました」

選抜は3月22日に開幕。中大関係者は、人口約35万人のいわき市が湧きかえる甲子園1勝を待っている。

